

草津市立矢倉小学校通信 令和2年10月15日 NO.13



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

心に響くあいさつ、言葉かけ

校庭の除草作業、剪定作業でできた枝葉を、校庭の片隅に山積みになっていた。クリーンセンターに引き取ってもらうためには、その枝葉は短く、小さくしないとイケないとのこと。すこし暑いくらいの日だったが、引き取ってもらう日が迫ってきていたこともあり、その作業に精を出していた。確かに暑いけれどさわやかな秋の風が心地よかった。去年の今頃は、奥村さん* といっしょに、あれこれとおしゃべりしながらやっていたなあ、懐かしく思い起こしながらの作業だった。

そんな中、「いつもありがとうございます。」「おつかれさまでーす。」「がんばってね。ありがとうございます。」「6年生の子どもたちが、いれかわりたちかわり顔を出しては声をかけてくれた。私が矢倉小にやってきたときは、3年生だった子たちである。あのころは、たいていの子が「あっ、校長先生や。」「せんせーっ!!」「なにしてんの?」自分と相手との関係を確かめようとするような、つなぎとめようとするような、そんな声かけだった。それが、今の「ありがとうございます。」となっているのだ。確かに元気の出る言葉で、そんなことがずっと自然に言えるように成長してきたんだなあうれしくなった。しばらくして、一人の子が「校長先生、水分補給しないとあかん。」と、一言、声をかけ、アイコンタクトして奥に姿をひっこめた。思わずそうだなあ納得し、のどの渇きに気づかされる。心に強く響くあいさつ、言葉かけである。これは相手に自分を重ねて受けとめることができているからこそ出てくる言葉かけだと言っている。

そういえば奥村さん* は、ことあるごとに子どもたちからかけられる言葉によるこび、ありがたいと言ってくださっていた。時には涙を流してもおられた。

あいさつ、言葉かけと一口に言っても、実にさまざまなものがある。私たちはどれだけのものを身につけ、どのように使えているだろうか、ふりかえてみたい。

校長 大林道範

* 奥村さん：学校ボランティアとして永年学校の環境整備・教育活動支援にあたってくださいました。

この秋、お亡くなりになりました（享年84歳）。